

自治体名	香川県
------	-----

## 女性の健康支援対策の概要

女性の健康づくりを支援する施策としては、これまで保健所における相談事業や、各市町の健康教育事業の一環として取組んできた。地域の母子保健事業においては、母親の健康づくり支援事業として講習会等を実施しているが、主に、子どもの心の健やかな発達促進と育児不安の軽減を目的とした保健事業が中心であり、母親自身の健康を対象とした保健事業は少ない。更年期の健康教室等を開催しても、参加者が少ないという理由により、事業を廃止した市町もある。

県の委託事業で、県看護協会が取り組んでいる健全母性育成事業では、思春期の男女を対象に電話相談を実施しているが、利用者は男性が98.4%・女性が1.6%と偏りがみられる。

また、乳がん・子宮がんの女性特有のがんの予防については、日本対がん協会県支部でもある検診機関と連携し、住民に対して普及啓発活動を実施してきた。

## 自治体の特徴

香川県は、四国の北東に位置し、北は瀬戸内海、南は阿讃山脈に囲まれた全国で一番小さな県である。気候はいわゆる瀬戸内式気候で、1年を通じて温暖であるが、降水量は少ない。平野部が広く山地が低いため、土地利用度が高く、人口密度は中・四国地方で最も高いが、高齢化が進み、人口減少に拍車がかかっている。

平成20年の出生率は8.6(全国8.7)で全国を下回っているが、一人の女性が一生に産むであろう合計出生率は、昭和60年以降年々減少していたが、平成20年には1.47で全国の1.37を上回っている。

人口構成・(H21.10.1現在)

	総数	男	女
人	1,000,169	480,222	519,947
割合(%)	100.0	48.0	52.0

15歳未満	136,159	69,587	66,572
15～64歳	608,853	303,702	305,151
65歳以上	253,516	105,823	147,693
75歳以上	132,853	49,670	83,183
85歳以上	38,178	10,851	27,327

## 女性に関する健康課題

平成16年に実施した香川県民健康・栄養調査によると、健康のために希望するものとして、20代女性では、健康診断(60.6%)、次いで個人でできるチェック表(39.4%)、健康知識・情報(33.3%)をであったが、30代女性では、健康診断(58.1%)、次いで健康知識・情報(37.2%)、個人でできるチェック表(30.2%)となっていた。

一方で、子宮がん検診受診率は、20代9.4%、30代32.6%にとどまっている。乳がん検診は、20代3.1%、30代11.6%と非常に低い。

健康に対する関心が高いにもかかわらず、行動が伴っていない現状を鑑み、特にがん知識・がん検診の重要性・必要を正確に伝える必要があると考えた。

## 事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	154
(2) 中高年期における健康支援事業	1,088
(3) 女性のがん支援事業	3,201
計	4,443

## (1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	女性の悩みアンケート調査及び「乙女(レディ)の悩みQ&A」作成
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	154

## 事業目的

20～30歳代(主に大学生や子育て中のママ世代)を中心とした若年女性をターゲットとして、健康意識や過去・現在の女性特有の「悩み」等女性の健康づくりに関するアンケート調査を実施する。アンケート結果により、健康課題について現状把握するとともに、「悩み(質問)」に対する「回答」を作成する作業部会を設置し、「乙女(レディ)の悩みQ&A」としてカテゴリー別に分類できるようデータベース化する。「乙女(レディ)の悩みQ&A」を県ホームページや携帯サイトで公表するしくみをつくり、あわせて、相談窓口等の情報提供も行う。

## 事業対象

県内の3大学の女子大学生、3歳児健診対象児の女性保護者、企業・団体の女性職員、子育て団体会員

## 事業実施体制・展開

- ①20～30歳代(主に大学生や子育て中のママ世代等)へのアンケート調査
  - ・協力大学・企業・団体に所属する女性に対し、アンケート用紙での調査
  - ・市町の3歳児健診会場における女性保護者に対し、アンケート用紙での調査
  - ・子育て団体の携帯サイトのアンケートシステムによる調査
- ②アンケート結果により、健康課題について現状把握する。
- ③アンケートの「悩み(質問)」に対する「回答」を作成する作業部会を設置し、「乙女(レディ)の悩みQ&A」としてカテゴリー別に分類できるようデータベース化する。
- ④「乙女(レディ)の悩みQ&A」を県ホームページや携帯サイトで公表するしくみをつくり、あわせて、相談窓口等の情報提供も行う。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

アンケート総数: 691人 (10代11% 20代34% 30代42%)

回答者の職業は家事専業が最も多く182人、次いで学生177人であった。不安に感じる度合いについては、年齢が増すごとに増える傾向にある。また、その内容は若年層では、生理に関することの占める割合が高く、年齢が増すと更年期障害、持病、身近な人の病気等と答えている。

がん検診の未受診理由は、若年層ほど受け方がわからない、暇がなかった、検診料金が高等であった。50代は、結果が不安であるため未受診という意見が多い。

評価アンケート: 携帯サイトのアンケートによる意識調査 127人

「乙女(レディ)の悩みQ&A」について、とても役に立った26% 役に立った64% と、肯定的な意見が9割であった。また、専門家のアドバイスを実践しようと思った割合が、すぐ実践したい18% 実践してみてもいい66%を占め、非常に好評であった。

## 事業の工夫点

関係団体との連携により、より広範囲の対象者に対して調査することができた。特に3歳児健診時にアンケートを実施・回収したことため、効率がよかった。

また、専門家からのアドバイスについても企画・評価委員の意見を徴収して、悩みに応じた質問集を作成し、子育て団体の携帯サイトへ掲載する等、今までにない取組を実施した。

## 事業の効果についての評価・考察

アンケート調査結果については、取りまとめた報告書を県下保健所・市町等関係各所へ配布し、健康相談等の事業に活用が広がることを期待している。

特に、3歳児健診の場を活用することにより、既存の調査では回答を得ることが難しい層からも回答を得られた。また、各市町や保健所も（温度差はあったが）調査に役割を持つことになり、事業に関与しているという意識が高まった。

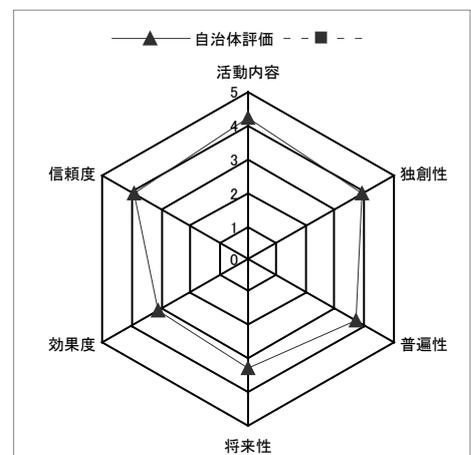
「乙女の悩みQ&A」の中に「先輩の体験談やアドバイス」として、アンケート回答者の過去の悩みの解決方法を掲載することにより、女性が自身の健康を自発的に考え、女性同士で学び伝えあうことの大切さを示す好機会となった。

## 今後の課題

「乙女の悩みQ&A」について、アンケート調査では携帯サイトに継続を希望する声が多かったが、県のサイトへの掲載や更新については予算的に困難であるため、子育て団体の所有するサイトでの活用を依頼している。掲載は継続される予定であるが、情報が古くなったり、より詳細で具体的な回答が求められると、掲載継続が困難になる恐れがある。（一般的なQ&Aとしての活用を期待。）

ホームページ	<a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/">http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/</a>
照会先	香川県 健康福祉部 健康福祉総務課 健康政策グループ 087-832-3261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	アンケートからQ&Aの作成まで、実施内容は多かったが、各関係機関の連携がとれていた。
②独創性	3.9	若年世代の不安を題材にしたもので、地域の専門家や先輩からのアドバイスがQ&Aとなっているものは、少ないと思われる。
③普遍性	3.7	全国展開するモデルではないが、本県では長く利用できると思われる。
④将来性	3.3	ターゲットの拡大や追加質問への対応等が求められるが、予算的に事業の継続は困難。
⑤効果度	3.1	短期間での効果測定は困難だが、継続できれば効果は高いと思われる。
⑥信頼度	3.9	実態調査に基づく活動で、各分野の専門家が関与しているため、信頼性が高い。







## (2) 中高年期における健康支援事業

事業名	孫から祖母世代（～50歳代）へのアプローチイベント「女性のためのスマイルハンズ&ハート」
分野	■知識の提供      ■健康相談      ■情報提供
事業費（千円）	1,088

## 事業目的

中高年女性の健康イベントへの参加を促すきっかけとして、子育て団体・幼稚園・保育所等の協力を得て、孫から健康のプレゼントとして、人が集まる大型ショッピングセンターにおいて、健康測定、健康相談等の健康教育を実施する。

## 事業対象

孫をもつ中高年女性(40歳～50歳代)

## 事業実施体制・展開

大型ショッピングセンターのセンター広場における1日イベント

## ①ブース出展「まちの保健室」

- ・健康度測定・相談のブース出展  
看護協会による健康測定・健康相談  
(骨密度・血圧・体脂肪率・身長・体重等)
- ・栄養相談のブース出展  
栄養士会による栄養相談

## ②ステージイベント

- ・健康(音楽)体操体験
- ・着せ替え写真館(ナースに扮した孫との記念撮影会)

## ③孫から祖母へのプレゼント キャンペーン

子育て支援団体の協力により、あらかじめ幼稚園、保育所に働きかけ、おばあちゃんへの招待状を作成できるチラシを配布(当日招待状を持ってきた方は、孫同伴の記念撮影のプレゼント)

## 事業目標・評価項目 及び その結果

イベント時アンケート	157枚	30代32%	40代12%	50代22%
		「まちの保健室」「栄養相談」は参考になった 100%		
		今回のイベントに参加して、自分の健康づくりに関心をもてた 98.7%		
参加者	まちの保健室	271人		
	着せ替え写真館	100人		
	健康(音楽)体操	250人(2回実施)		
	オリジナル紙芝居	400人(5回実施)		

### 事業の工夫点

健康教育や健康相談に、普段は参加しない年代に対してのアプローチを、「孫からのプレゼント」という方法と、保育所、幼稚園、小学校へのチラシ配布により個別に周知し、集客に努めた。

また、イベントは集客の見込める週末のショッピングセンターで実施し、通りすがりの家族でも楽しめる短時間の繰り返しメニューとした。

### 事業の効果についての評価・考察

ショッピングセンターでのイベントについては、健康教育・健康相談を目的に集まった人だけでなく、他の目的で来場した比較的健康に関心の薄い層へ、アプローチができた。

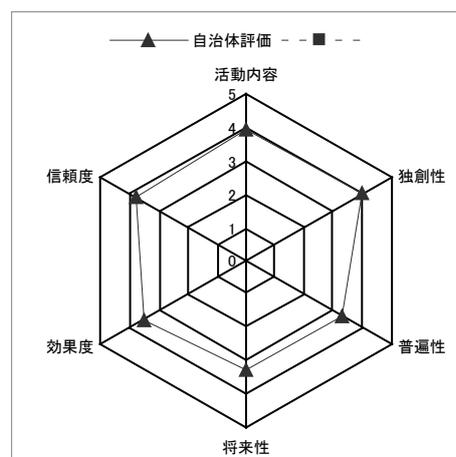
「孫からの健康プレゼント」という発想を今後地域が活用する際には、関係団体との連携が必要であり、工夫しだいでさらに発展することも期待できる。

### 今後の課題

地域の事業活動として、今回のアプローチ方法を市町が同様事業に活用できるかは不明であるが、イベントだけではなく、他の事業への展開も可能と思われる。

ホームページ	<a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/">http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/</a>
照会先	香川県 健康福祉部 健康福祉総務課 健康政策グループ 087-832-3261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.9	対象年齢が50代までで、祖母世代とすることに無理があったが、イベントには集客力があつた。
②独創性	4.0	世代間のつながりをベースとした視点は独創的であり、イベントの周知先を保育所・幼稚園・小学校としたことは、家族で健康を考える機会となった。
③普遍性	3.3	世代間を越えた活動方法は、ひとつの活動モデルであるが、単発のイベントではなく、数箇所で実施できればよかった。
④将来性	3.3	予算がなければ継続性は低いですが、関係団体との連携により、事業展開の可能性が感じられる。
⑤効果度	3.5	子どもから祖母世代まで、家族参加のイベントであつたため、一定の効果はあつた。
⑥信頼度	3.8	専門職の団体の協力が得られたので、イベント内容は信頼度の高いものであつた。



事業名 / 女性のためのスマイルハンズ&ハート  
 開催日 / 平成22年2月7日(日)  
 開催時間 / 午前11時-午後6時  
 開催場所 / イオン高松ショッピングセンター 1階 Sea コート  
 《オープニングセレモニー》

《音楽体操》



《まちの保健室》



《栄養相談》

《着せ替え写真館》



《紙芝居》



## (3) 女性のがん健康支援事業

事業名	ママピンクリボンイベント「女性のためのスマイルハンズ&ハート」と乳がん啓発事業オリジナル絵本「ボクはおっぱいレンジャー！」の作成・活用
分野	■啓発活動      ■健康教育      □健康相談
事業費（千円）	3, 2 0 1

## 事業目的

1. 子育て世代の女性のがんに対する意識を変え、子宮がん検診の受診促進・乳がん検診の自己検診の普及に努めるため、ピンクリボンかがわ県協議会と連携し、子育て団体が新たに立ち上げる「ママピンクリボン」のイベントを開催する。
2. 子育て世代のがん検診に対する意識を変え、子宮がん検診の受診促進・乳がんの自己検診の普及啓発を図るため、保健所と市町が連携し「3歳児健診」の機会を利用し、健康教育を実施する。
3. 子育て世代の女性が、「がん」特に乳がんに対して興味を持つきっかけとなるような、啓発資材を企画・作成する。啓発資材は、イベントや「3歳児健診」における健康教育の機会を使って効果的に活用する。また、子育ての現場に広く配布し、啓発に努める。

## 事業対象

子育て中の母親(20歳～30歳代)、3歳児健診対象児の女性保護者

## 事業実施体制・展開

1. ショッピングセンターでのイベント
  - チラシ配布数 60,000枚 県下の保育園・幼稚園・小2以下、関係施設に配布
  - ①ステージイベント
    - 医師・有識者によるママピンクリボントークショー（全国マミーズサミット協力）
    - るいママ(乳がん体験者)によるコンサート
  - ②オリジナル絵本「ボクはおっぱいレンジャー」の読み聞かせ
    - 大紙芝居を使って語り部による読み聞かせ
  - ③笑顔いっぱい親子撮影会&写真展示
    - 子供とともに、笑顔でストレスを吹き飛ばそう！
  - ④絵本のパネル展示
    - 「ボクはおっぱいレンジャー！」の大型パネル展示
    - \*そのまわりに撮影した親子の笑顔を掲示
  - ⑤ママピンクリボン活動啓発の参加団体ブース
2. 3歳児健診における健康教育
  - 市町母子保健担当と保健所健康づくり担当との連携体制により実施。
3. 乳がんオリジナル絵本「ボクはおっぱいレンジャー」の活用
  - 上記の健診時健康教育において配布し、教育資材として活用

## 事業目標・評価項目 及び その結果

イベント時アンケート 145枚 20代13% 30代48% がんが身近になった97% がん検診受診したい99%  
 イベント来場者 4,000人 参加者：トークショー200人(4回) コンサート200人(2回) 紙芝居300人(5回)  
 絵本感想アンケート 768枚 乳がんや乳がん検診を知っている85% セルフチェック知っている71%  
 セルフチェックを実施している14% これからしようと思う59.6%  
 絵本はわかりやすかった68.4%

### 事業の工夫点

1. イベントにおいては、集客の見込める週末のショッピングセンターで実施し、通りすがりの家族でも楽しめる短時間繰り返しのメニューとした。
2. 「オリジナル絵本」では、「これは何だろう？」と手にとって見てもらえ、「がん」や「がん検診」への関心の低い若い世代にその重要性を訴えるべく、子育て支援団体の協力を得て作成した。
3. 健康教育は、市町の母子担当と県保健所担当者の連携により、3歳児健診の場で待ち時間を活用して実施した。乳がんモデルを使い、親子で触って体感することで「乳がん」に対する関心が高まった。

### 事業の効果についての評価・考察

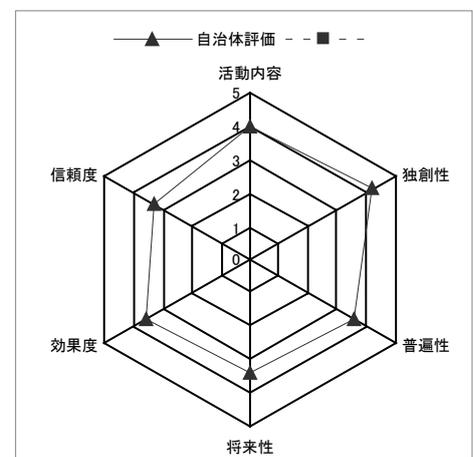
1. ショッピングセンターの中央広場で開催したことにより、広くPRすることができた。華やかなステージイベントだけでなく、がん検診機関の協力によりブース展示が充実したものになった。
2. 作者の体験がストーリーとなっており、メッセージ性も高い。作成過程においては賛否両論あったが、これまでにない若年女性向けのユニークな啓発資材である。マスコミ、県外自治体からの問い合わせがあり、注目を浴びた。また、この啓発資材を題材にした1のイベントや3の健康教育を展開できたことは効果的であった。
3. 20～30代の若年女性に対する健康教育を企画しても、参加はほとんど見込めない現状である。子どもの3歳児健診となれば、会社や家事をおいても受診するため、対象者をつかましやすい。健診に参加した母親の待ち時間を活用して、健康教育ができ非常に効果的であった。

### 今後の課題

1. 予算がないため、同規模のイベントは今後、開催困難であるが、小規模でも開催できるように工夫が必要である。
2. オリジナル啓発資材の絵本は「わかりやすい」と評価も高いので、今後、地域での有効活用を期待する。
3. 市町で、乳児健診健康づくりと母子担当の連携により継続した取組として欲しい。

ホームページ	<a href="http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/">http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/hw-net/jyosei/</a>
照会先	香川県 健康福祉部 健康福祉総務課 健康政策グループ 087-832-3261

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.0	独自で作成した啓発資材を、イベントや地域の3歳児健診で効果的に活用できた。
②独創性	4.2	オリジナル絵本は内容も独創的で、今までにない取組であると思われる。
③普遍性	3.6	関係団体とのネットワークが構築されていけば、手法として取り掛かりやすく展開もしやすい。
④将来性	3.4	子どもに対するアプローチを通じて、親子がともに考える機会になったことが、持続性に繋がるが、経費面で継続は困難である。
⑤効果度	3.6	短期間の効果を期待するものではないが、がん検診の受診勧奨の要因となった点では、効果が見られる。
⑥信頼度	3.3	オリジナル絵本の内容については、独自性があった反面、専門職の意見を取り入れ検討を重ねる必要があった。



事業名 / 女性のためのスマイルハンズ&ハート  
開催日 / 平成22年2月6日(土)  
開催時間 / 午前11時-午後6時  
開催場所 / イオン高松ショッピングセンター 1階 Sea コート  
《オープニングセレモニー》



《トークショー》



《るいままファミリーコンサート》



《紙芝居》



《乳がん、子宮けいがん検診啓発コーナー》



《笑顔の写真館》

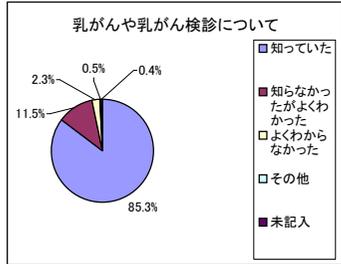


# オリジナル絵本『おっぱいレンジャー』アンケート結果



## ★乳がんや乳がん検診について

知っていた	655
知らなかったがよくわかった	88
よくわからなかった	18
その他	4
未記入	3
合計	768

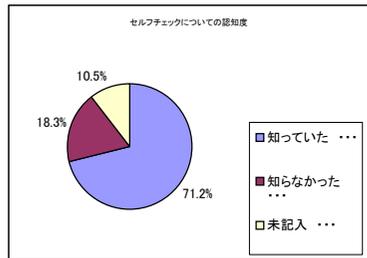


アンケートの結果から乳がんや乳がん検診の結果から85.3%の人が知っていた。  
また、「知らなかったがよくわかった」人は11.6%であった。  
しかし、セルフチェックについては、「知っていた」人が70.6%であったにも関わらず、実施していた人は14%に過ぎなかった。  
今回の普及啓発により、「していなかったがしようと思った」人が59.8%と効果があったと思われる。  
また絵本の内容については、絵本の内容がわかりやすかった人などが68.4%の人に効果があったと思われる。

今後も難しい表現ではなく、わかりやすく受け入れやすい資料による普及啓発が必要であると思われる。

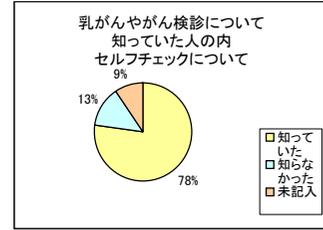
## セルフチェックについての認知度

知っていた・・・	542
知らなかった・・・	139
未記入・・・	80
合計	761

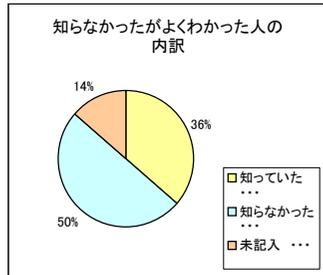


## セルフチェック①の問いについて

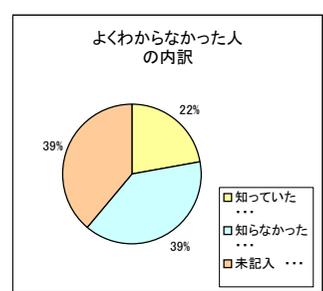
知っていた	506
知らなかった	88
未記入	61
合計	655



知っていた・・・	32
知らなかった・・・	44
未記入・・・	12
合計	88



知っていた・・・	4
知らなかった・・・	7
未記入・・・	7
合計	18



## セルフチェック②の問いについて

これまでもしていた	94
していなかったが、しようと思	276
必要がないと思う	4
その他	15
未記入	117
合計	506

これまでもしていた	0
していなかったが、しようと思	58
必要がないと思う	1
その他	0
未記入	29
合計	88

これまでもしていた	13
していなかったが、しようと思	44
必要がないと思う	1
その他	2
未記入	1
合計	61

これまでもしていた	2
していなかったが、しようと思	25
必要がないと思う	0
その他	0
未記入	5
合計	32

これまでもしていた	0
していなかったが、しようと思	27
必要がないと思う	0
その他	1
未記入	16
合計	44

これまでもしていた	0
していなかったが、しようと思	12
必要がないと思う	0
その他	0
未記入	0
合計	12

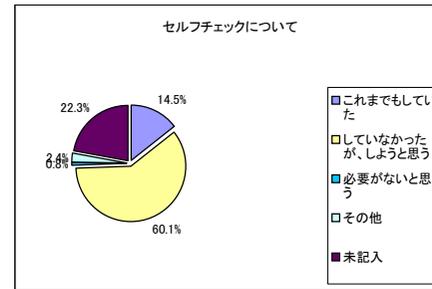
これまでもしていた	1
していなかったが、しようと思	3
必要がないと思う	0
その他	0
未記入	0
合計	4

これまでもしていた	0
していなかったが、しようと思	5
必要がないと思う	0
その他	0
未記入	2
合計	7

これまでもしていた	0
していなかったが、しようと思	7
必要がないと思う	0
その他	0
未記入	0
合計	7

## セルフチェックについての内訳

これまでもしていた	110
していなかったが、しようと思	457
必要がないと思う	6
その他	18
未記入	170
合計	761



## ★絵本『おっぱいレンジャー』の感想

自分や家族でしようと思った	156
他人事でないので、気をつけようと思う	2
検診に行こうと思った	70
がんについて再確認できた	50
病気のことは知っていたが、自分でチェックが必要とは知らなかった	6
絵本が分かりやすい内容だった	244
女の子版があればよい	1
子供には難しい	12
批判的な意見	48
その他	13
未記入	144
合計	746

